

東崎山だより

令和3年1月号 通刊156号

355-0044 東松山市正代778-3 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email:semyojuji@yahoo.co.jp HP:tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

謹賀新年

丑年(うしどし)を迎えて



■新しい生活様式の中で、仏の真理を得て苦しみを克服

正月というと、まず思い浮かべるのが、「初詣」。初詣というと神社を連想するかも知れませんが、本来、この習わしは、菩提寺に行き、除夜の鐘を聞き、年送りをして、そのまま寺に留まり、そこで元旦を迎えて、仏様に新年のご挨拶をして祈願することだったそうです。除夜と初詣は一つのものだったのです。

つまり、神道だけの行事ではなかったのです。昔は盆と正月は、先祖の霊をお迎えする日でした。平安時代になると盆と正月に精霊をお迎えする魂祭りが行われていました。盆と正月に先祖の霊が帰ってくると信じられていたのです。

混雑や車の渋滞が起こる中で、あえて遠方に福を求めてでかけることなく、地元のお寺や故人が眠るお墓にお参りすることが、仏の正月にふさわしいと思います。

結びに、皆様が心安らかに本年を過ごされ、幸多き1年となりますよう祈念申し上げます。

■「正月祈願祭(転読大般若会てんどくだいはんにやえ)」

檀家の皆様をはじめ特別祈願された方々の「心願」を、千手観音様に祈願します。ぜひ、初詣がてら皆様ご家族お揃いでご参詣ください。

1月2日(土) 午前10時



●**祈願札** 木札—3000円 紙札—1000円

* 祈願内容

家内安全・交通安全・商売繁盛・病氣平癒・合格祈願・その他諸願成就

* 各種お守りもあります。

■奉仕作業お疲れさまでした。

12月12日(土)寒い中、ありがとうございました。山中の雑木の除去と川に張り出した山裾の竹等の除去・枯れた竹・混み合った竹の伐採・観音堂・地藏堂・天神様の清掃をしていただきました。3密防止の為、ゆっくりお休みいただけずに申し訳ありませんでした。

■ 独特な日本人の拝み方

● 拝む対象を問わない

何かお願いするとき、特別なことが無い限り、相手がお釈迦様か、阿弥陀様か、お地蔵様か、ほとんど問題にしていないのではないのでしょうか。それどころか、神様か仏様も、ほとんど問わないのではないのでしょうか。つまり、神様でも仏様でも、何か自分を越えた力を持っていそうな相手に手を合わせているのでしょう。

日本では、昔から八百万の神がある、と信じられてきました。神様だけでも八百万種類あり、どの神様に祈ってもいい、というわけです。

仏様にしても、仏、菩薩、明王、諸天などがあり、菩薩にも弥勒様、観音様、お地蔵様などがあって、仏様の世界を描いた曼荼羅には、大日如来を中心に3000以上の仏様が居並んでいます。

イエス一人を仰ぐキリスト教、マホメットだけを信じるイスラム教から見れば、この驚くべき多神・多仏の世界はとても理解できないかも知れません。

● 御利益を期待して拝む

もちろん、キリスト教やイスラム教でも、何かのよい報いを願っている信者はいると思いますが、一人の超越した人物を拝む場合、絶対者の前に頭を垂れて、自分の至らなさを顧みる、そして励ましを求めるといった精神的、道徳的要素がより一層強いように思います。

● 手を合わせるという拝み方

拝むと言えば合掌、つまり手を合わせるのであり、神社ならばその上にパンパンと拍手を打つだけの違いです。

ある日本人がヨーロッパで、知り合いの外人のお墓に詣でたとき、墓石に向かって手を合わせました。すると、外国人の遺族たちが妙な顔をして「何をしているのか。そんなことをしないでいい、ただ墓石を見つめ、故人を偲べばいいんだ」というのです。

私たちにとって当たり前な合掌という形は、日本人に溶け込み、普段は真剣な仏教徒でない日本人でも、そんな形で完全に仏教や神道の世界に住んでいるということなのです。



一仏両祖

■ 今月のことば

「リングの外であれ中であれ、倒れるのがいけない
のではない。倒れたままなのがいけないのだ」

モハメッド・アリ

■ 1月の予定

- 祈願祭(転読大般若会) 2日
- 坐禅会(7時)・写経会(8時) 10、24日
- 道元禅師降誕会 26日
- 寺子屋 16、23日